



## 先人の偉業に感謝を込めて 開こん記念祭

▶問い合わせ  
開こん記念祭実行委員会事務局  
(国総務課内) ☎0287(37)5105



◆とき **4月15日(月)午前9時20分～**  
◆ところ **烏ヶ森公園 (雨天時:三島ホール)**

開こん記念祭は、明治18年4月15日に日本三大疏水の1つと言われる、那須疏水の開削起工式が行われたのを記念して始められた催しです。

### 《開拓の歴史》

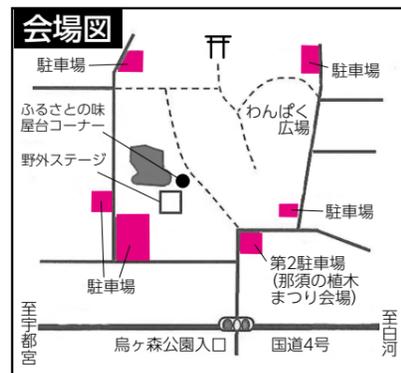
那須塩原は昔、水が乏しく不毛の原野でしたが、1885年(明治18年)、那須疏水が開削されたことで急速に開拓が進み、多数の村落が形成されました。1967年(昭和42年)には那須野が原の総合開発が始まり、今日では大規模田園地帯に生まれ変わりました。

### <野外ステージ>

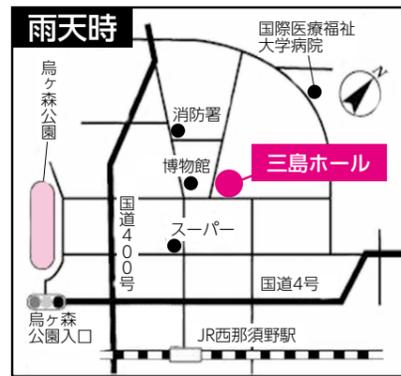
- 午前9時20分～ ◇オープニングイベント(子ども疏水太鼓)  
◇まんじゅう無料配布(なくなり次第終了)
- 午前9時40分～ ◇式典
- 午前10時～ ◇日本遺産紹介(パネル展示とパンフレット配布)  
◇福祉施設の紹介、園芸や手芸作品などの展示・販売

### <ふるさとの味 屋台コーナー>

- 午前10時30分～
  - ・開拓なべ 800人分
  - ・餅振る舞い 250人分
  - ・芋串 600人分
  - ・野だて(茶会) 100人分
  - ・緑の苗木無料配布会 300本
- 〈問い合わせ 農林整備課 ☎0287(62)7148〉



### 雨天時はこちら



## 関連イベントも開催されます

### ◆烏ヶ森公園開催

#### <那須の植木まつり>

4月6日(土)～15日(月) 午前9時～午後7時

▶ところ 烏ヶ森公園南第2駐車場

▶問い合わせ

JAなすの植木センター ☎0287(36)3477

### ◆那須野が原博物館開催

#### <開拓史跡めぐり>

4月6日(土) 午前9時～午後4時

#### <無料観覧>

4月15日(月) 午前9時～午後5時

▶問い合わせ 那須野が原博物館 ☎0287(36)0949

## 純資産変動計算書

「貸借対照表」の純資産(資産と負債の差額)が平成29年度中に、どのような財源や要因で増減したのかを表します。本年度末純資産残高は「貸借対照表」の純資産額と一致します。

前年度末(平成28年度末)純資産残高 <b>a</b>	本年度末(平成29年度末)純資産残高 <b>(a+b)</b>
2,182億4,746万円	2,199億2,587万円
本年度変動額 <b>(c-d-e) b</b> 16億7,841万円	
○財源 <b>c</b> 722億2,127万円 (市税、地方交付税、国・県補助金など)	
○純行政コスト <b>d</b> 705億3,162万円 (行政コスト計算書の純行政コスト)	
○その他 <b>e</b> 1,124万円 (資産評価替えによる変動額など)	



## 資金収支計算書 (キャッシュフロー計算書)

1年間の現金の出入りを示したもので、その収支の性質に応じて3つに区分して、どのような活動に資金を充てたのかを表します。本年度末現金預金残高は「貸借対照表」現金預金と一致します。

前年度末(平成28年度末)資金残高 <b>あ</b>	本年度末(平成29年度末)資金残高 <b>か(あ+い)</b>
63億3,955万円	78億9,051万円
本年度変動額 15億5,096万円 <b>い(う+え+お)</b>	
○業務活動収支 <b>う</b> 68億7,302万円 (継続的な行政活動から発生する収支)	
○投資活動収支 <b>え</b> △48億1,236万円 (公共施設整備などの整備に関わる収支)	
○財務活動収支 <b>お</b> △5億 970万円 (地方債の発行・償還などの財務的な収支)	
	本年度末(平成29年度末)歳計外現金残高 <b>き</b> 169万円
	本年度末(平成29年度末)現金預金残高 <b>(か+き)</b> 78億9,220万円



市の資金繰りは大丈夫?	市の純資産は増えたの?減ったの?	行政コストは税金などでまかなえていますか?
約16億円の黒字です 平成29年度末の資金残高は、平成28年度末から約16億円(い)を積み増したことが分かります。 継続的な行政活動(う)から発生する黒字で、公共施設などの整備に必要なお金(え)をまかなうとともに、借入金の返済(お)にも充てています。	純資産は増加しました 本市は、純行政コスト(だ)より財源(か)が多く、約17億円のプラスとなっています。 これまでの世代や国・県が負担した、将来返済しなくてよい正味の財産(純資産)が1年間に増加したことが分かります。	まかなえています 税などの財源(か)に対する資産形成を伴わない純行政コスト(だ)の割合を「行政コスト対税率」といい、どれだけ当年度の財源でまかなわれたかが分かります。比率が100%以内にあると、収入が大きく、黒字ということが言え、本市は97.7%です。